



やらまいか

例会日：毎週火曜日 12:30 例会場：豊川商工会議所
 会長：井指光基 幹事：山城康司 SAA：笠原盛泰 会報委員長：小野喜明
 事務局：豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 Tel0533-86-2535 Fax0533-86-8889
 ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email hoirc@sala.or.jp

本年度39回 通算第1065回 平成20年5月13日(火) 晴

ゲスト CMS C浜松 国際C級ドライバー 西川美佳さん
 ビジター (なし)
 出席報告 宮崎眞一委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	4/15修正出席率
55名	43+5名	30名	52.1%	95.7%

司会進行 笠原盛泰 SAA

★会長の挨拶及び報告 井指光基会長



こんにちは。昨日、伴パスト会長、大沢パスト会長、波多野パスト会長と一緒に財賀寺の仁王様を見に行ってきました 10周年事業の仁王様が財賀寺に戻られた記念式典が行われたのが、平成10年10月10日で、今年平成20年なのでちょうど10年になります。そんなこともありまして見に行ってみました。それで、当時の実行委員長の沢大沢パスト会長がおられますので、会長あいさつの代わりに少しお話を頂きたいと思っております。

★あいさつ 大沢茂樹パスト会長



実は、伴さんがお昼をご馳走してくれるからおいでと連絡をもらいまして出掛けました。伴さんとも久しぶりに会いました。

美味しいお寿司をご馳走になりまして、ありがとうございました。

いろいろな話をするなかで、貴乃花が土俵入りをしてから、ちょうど10年になるなって話ができました。平成10年10月10日に財賀寺の仁王様の前で、貴乃花の土俵入りをやりました。財賀寺に行くととても嬉しかったのは、安藤佳和会員や水野太一会員たちが精魂込めて作ってくれたあの土俵が、10年経った今もちゃんと残っていたことです。それから、国分尼寺の跡地にも行って来ました。ボランティアの方が歴史について熱く語ってくれて、最後には日本の起源まで話が発展して、この豊川には宝の山が揃っていることがわかり、こんなに素晴らしい資源があるなら、もっとPRをして宝物を活かさないといけないと話が盛り上がりました。仁王様も国宝になったらいいなあという思いにもなりました。楽しい一日でした。伴さん、ありがとう。

伴パスト会長と岩瀬パスト会長は、我々の生きる目標ですので、これからもご指導をお願いします。飛び入りのスピーチさせて頂きました。ありがとうございました。

★幹事報告 山城康司幹事

ウィークリー：蒲郡RC
 例会臨時変更のお知らせ
 渥美、豊橋北、豊橋ゴールデン、
 田原パシフィック

★外部講師の卓話

◎講師の紹介

富田高子会員

こんにちは。ロータリーといえは社会貢献、社会貢献といえは西川美佳さん。ということで、今日は国際C級ドライバーの西



川美佳さんをご紹介させていただきます。スポンサー探し、人生の色々なことなど、障害もあって人一倍努力をされている方ですが、それをガッツで、笑顔で乗り越えられています。どうぞご静聴宜しくお願ひします。

◎卓話

「モータースポーツと私幸せの使い道」

西川美佳さん

豊川宝飯ロータリークラブの皆様、初めまして、豊田市から参りました西川美佳と申します。私は



市販車をベースに改造したマシンでレースに出場する4輪のレーシングドライバーです。このたびは会員の富田様のご紹介で参りました。私のような若輩者が皆様方の前に立つ事は大変光栄な事であり、非常に恐縮しております。私の父は豊田ロータリークラブの会員でした。実は今日5月13日は父の8回目の命日です。このような日に父の大先輩である皆様方の前で、こうしてお話させていただく事、父は空の上からさぞかし喜んでいらっしゃると思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、私がモータースポーツを始めたキッカケからお話したいと思います。小さい頃は身体が弱く、保育園の通園記録はお休みの赤いスタンプだらけ。水泳やマラソンなど激しい運動に制限があり、思い切ってやってみれ

ば保健室行きです。まわりから「父親ゆずり」と言われる私の性格は、じっとしているのが苦手。いつも何かしたいと考えてばかりいました。高校受験をひかえた頃、ふと気づきました。自分の身体が満足に使えるなら道具を使えばいい。私はオートバイに興味を持ち、未だに両親へ打ち明けていませんがバイク通学の許されている高校を受験しました。大きな下心の甲斐あって見事合格、これで16歳になったらオートバイに乗って風をきって走る事ができる、と喜んでいましたが、世の中そう甘くはありませんね。バイク通学が許されるのは自宅からバス停まで数キロ以上ある生徒のみに限定されており、私はその条件を満たしていませんでした。ガックリする反面、「何がなんでもモーターを使う世界に入ってやる！」と自分自身にはじめて感じる不思議な感触がありました。そして今、バイクに乗れないなら、学ぼう！とオートバイのレーシングチームに所属し、レースのお手伝いをする事にしました。

サーキットはオイルの焦げるにおい、ピットに入ってくるライダーとメカニックの掛け合い、一目で憧れの2輪のロードレーサーを目指すようになりました。しかし、手伝いながら勉強していくうちに、いくつかの残念な出来事に遭遇してしまったのです。転倒しケガをする人、なかには先ほどまで楽しくお話をしていたのにすでに呼吸をしていない人。私はただ「走りたい！」からと考えていた自分の甘さにゾッとしました。同時にオートバイに乗る事に対して迷いを感じるようになっていました。

ちょうどその頃、高校の同級生がある海外ラリーのビデオを見せてくれました。砂けむりをあげて疾走し、車ごとジャンプ、着地するにも車体を横に向けコーナーを抜けてゆくマシン。またしても私は一目ぼれしてしまったのですが、今度はちょっと違いました。「こうなりたい」ではなく「絶対！こうなる！」と強く思ったのです。さっそく私はお給料のため、中古ですがラリー仕様の車を購入しました。そして4輪のオフロード競技で活躍するチームに所属し、先輩にドライビングテクニックを教えて頂いたところ、思いもよらず「筋が良い」「速い」と背中を押され、すぐにダートトライアルレースへ出場となりました。これが私のモータースポーツデビューです。ダートトライアルというのはラリーの縮小版

で未舗装、つまりダートであり当日発表されたコースを2本走り、良いほうのタイムで順位を競うタイムトライアルです。さて、その記念すべき私のデビュー戦ですが結果は惨敗。デビュー前に「筋が良い、速い」と言われた私は「世界中で私が一番速い！」と思ひ込み



現実に私が出場すれば優勝だわ！などともないおごりようでした。もう恥ず

かしいやら悔しいやらで涙が出てしまったのですが、そこで師匠に言われた事は「泣くという事はものすごいパワーを使うんだ。そのパワーがあるなら人の倍ハンドルをまわせ！」こう言われたのです。私は「絶対1番になる！」そして速いだけでなく「あいつは上手いと言われるドライバーになる！」と強く自分に誓いました。それからの私はとにかく練習とトレーニングを重ね「あの子は頭がおかしいんじゃないか」と言われるぐらいでした。その努力とともに成績がともなってきたもっと上へ！もっと速く！と常に上を目指しながら益々のめりこんでいったわけです。そうしていくうちに私は中部地方選手権、この中部というのは日本地図で静岡県から三重県 北陸を含んだ地区です。その地方選手権でクラス5年連続全戦全勝チャンピオンとなっていました。出れば勝つのが当たり前。「どうせ西川が勝つから賞品は安物にしておけ」と言われてしまうハプニングもありました。ちなみにその時の賞品はタワシと軍手。こっちは命がけで勝負しているのにまったく失礼な話です。

お話がそれでしたが、もっともっと上へと思う私は全日本選手権へ出場するようになりました。その頃の私は成績を認められタイヤ、オイル、ショックアブソーバーなど7社のスポンサーがついて下さいました。しかし、北海道から九州までを転戦するのに私のお給料では高速道路にのったり、ホテルに泊まったりする事は不可能でしたので私は安い軽油で走る事ができるディーゼルのトラックを借り、自分のマシンをトラックに載せ日本全国、国道を走ってレースに出掛けていました。いつ

も国道を走ってくるのでレース仲間からは「国道の女」というニックネームをつけられてしまいました。トラックの中での野宿は、シートはフラットになって足をのばして眠れるし、国道を通るのは何より無料。それに高速道路では見られない日本全国の素敵な景色を見る事ができて国道の女には快適な道中でした。そして何より得たものは人との出会いです。数え切れないほどの思い出がありますので少し紹介させていただきます。

遠征先でガソリンスタンドに寄った時の事です。どしゃぶりの雨でしたのでスタンドの屋根を借りてタイヤ交換をしているとそのスタンドの奥様に声をかけられました。女がひとり他県ナンバーのトラックにド派手なマシンを載せて、それをわざわざ降ろしてタイヤ交換をしているので大変妙だ、「何をしているのか？」と聞かれたので私はかくかくしかじか、レースに行くのにお金が無いので一人で来ました。雨のレースになりそうなのでお宅の屋根を借りて雨用のタイヤに交換させて頂いているのです。と説明すると奥さんは私にしばらく待つように言って自宅と思われる裏の家の中へ入って行ってしまいました。妙なのは私でなくてここの奥さんのほうだなあと思っていたら、家から奥さんが何かを持って飛び出してきてそれを私に持たせて言いました。「これを食べてがんばるのよ！」奥さんは初対面の私にお弁当を作ってくれていたのです。またある時の事です。日本全国、国道で行くくらいですからその土地の美味しいものを食べる余裕などありません。遠征中、私はいつもキャンプ用のコンロをトラックに積んでおき、カップラーメンを食べるばかりでした。ある日の道中、桜がとても綺麗な場所があったので、道端にトラックをとめ、荷台でお湯を沸かし、いつものようにカップラーメンを食べていました。本当に桜がきれいだなあ、と花を見ていると、田んぼで作業をしていたおじいさんに声を掛けられました。また私はかくかくしかじか、愛知県から来てレースというものをしに行くのだと、なるべくおじいさんにわかるように説明しました。おじいさんはレース場の場所や私の名前を、方言まじりでしつこく聞くのでよっぽどレースを知らなくて興味を持ったのだなあと思っていたのですが、翌日のレース本番。出走前、コースの確認をしていると、昨日のおじいさんが観客席にいたのです。作業着に長靴、そ

してマジックで西川美佳と書かれた手ぬぐいを私にわかるように一生懸命ふってしてくれたのです。レースで表彰台にあがる達成感はとっても幸せですが、こういったあたたかい方との出会いと、励ましは「見ていてくれる人がいる」と思うと本当に幸せでした。同時に私はこんなに幸せでいいのだからか？私の幸せを何かしらに分けてあげられないだろうか考えるようになりました。



うか？私の幸せを何かしらに分けてあげられないだろうか考えるようになりました。

スポンサーは私のマシンにステッカーを貼るから頂ける、それは見てくれる人がいるから。レース場でなくても声を掛けて頂ける。「私は目立ってしまうんだ。よし！それなら見てもらおう！」と行動をはじめました。そこですぐに盲導犬協会に許可を頂きマシンに盲導犬のステッカーを貼りました。そして承諾を頂いたところに募金箱を置いてもらう活動をしました。そして全日本選手権では自己アピールのアナウンスがあるのですがここでは「盲導犬育成の為の募金を御願います。」とアナウンスしていただきました。この事でどれだけの募金が集まりどれだけの方にアピールできたかはわかりません。ですが何もしないよりはいいと思いました。私のおごりや思い上がりと言われてもかまわない、見返りなんて望んでない、盲導犬育成に協力できればそれでいいじゃない！そう思ってこの活動を続けました。なぜ盲導犬なのか、それは単純に私の小さい頃からの夢はドライバーではなく盲導犬の訓練士だったからです。訓練士を目指していた私は色々な条件をクリアできず結局断念したのですが、レースを通じて小さい頃の夢を違うかたちで叶えられたように思いました。モータースポーツをただ自己満足で終わらせるだけでなく、社会貢献につながれる事ができて、私は新たな達成感と喜びを得ました。そしてダートトライアルつまり、オフロードのレースから鈴鹿サーキットでデビューし、オフロード、オンロードを走りわけられるドライバーになりました。こうして私のモータースポーツライフは順風満帆に続いていくのだと思っていた時、父が亡くなりました。ビデオでご覧頂いたとおり、父が亡くなった事により片付けなければならない事がいっぱいレースをやめなければいけ

ないと悲観的になっているような場合でなく、現実無理でした。片付けをしながら車の事を脳みそから消し去ろうという非常に辛い努力をし続け、友人からは廃人のようだとされていました。しかし、今となっては誰しも望んでする事でない事を体験し、勉強ができた振り返る事ができます。

そして数年、その片付けが落ち着き始め、ちょうど私の頭から車の事が消え去ったと思われる頃、一人の女性ドライバーから「一緒に組んで鈴鹿の耐久レースに出ようよ」と声を掛けられました。私の頭の中ですっかり消したはずのものがパチンとはじけたように戻ってきました。「やっぱり私、走りたい」半年後、私はその彼女と鈴鹿サーキットでの耐久レースに出場する事になりました。これが私のモータースポーツの復帰戦です。



アクセル全開のストレートで風をきる音、コーナーで全身に受けるG。走る事の楽しみ、喜びを全身で思い出し、ゴールした時にはメルメットの中で自然に涙があふれていました。そしてレース結果はクラス準優勝。私達おばちゃん2人組みは普段からレースに出ている男性陣にひけをとらないタイムで走っていたのです。野心を取り戻した私は彼女と「来年は優勝してやろう！」と約束し、翌年同じレースに出場し、約束どおり優勝する事ができました。彼女は暗闇の中から私を連れ出してくれた恩人であり今でも良き先輩であります。また走る事の喜びをかみしめていたこの頃、別の女性ドライバーから声がかかりました。

「私と一緒に十勝24時間レースに出ない？」私はかなり驚きました。この十勝24時間レースというのは国際格式のレースであり、その名の通り、24時間ぶっとおしで走り続ける日本国内で一番過酷と言われるビッグレースです。もちろん一人で走るわけではなく、3人～4人交代するわけですが、私はそのメンバーの一人として出場する事になりました。そんなビッグレースに出るからには私は何かしらの社会貢献活動はできないか考えました。バタバタと準備をしている時、TVで難病の赤

ちゃんのニュースが流れていました。先ほどビデオで見ていただいた「山下みらいちゃん」です。この赤ちゃんが助かるためには時間がない、十勝ではこの子のために走ろうと決めました。すぐに救う会に連絡し彼女の為に活動する事のお許しをいただきました。24時間レースのメンバーも賛同してくれてマシンの名前は「山下みらいアドバンランサー」と決定しました。ビッグレースでは車両名にたいいスポンサー企業の社名などがつくのでマシンに人の名前がつけられるのは極めて珍しい事ですが、私はそこまでしてでもこの赤ちゃんの支援活動をしようと思いました。なぜかという私以前レースをあきらめなければならなかった時、こんな大きなレースに出る事なんて1%の可能性もなかった。でもがんばったら今100%出場できる事になった。資金も無く、どんどん元気を失っていく



赤ちゃんに手術のための募金活動だけでなく、私達が過酷なレースを完走する事で生きる事、

100%の希望を届けたかったのです。そしてTVでも「絶対完走！」を宣言した十勝24時間レースへ向かいました。決勝当日、ピットウォークといわれるギャラリーの方がまじかにマシンやドライバー、レースクイーンと触れ合える場があります。そこで私はこの写真のとおりみらいちゃんの為の募金活動を行いました。私と一緒に大きな声で募金活動をしてくれたのは業界初のレースボーイです。彼らの頑張りにも助けられ、ピットウォークが終わる頃には募金箱はズッシリと重くなっていました。募金活動も終わり、さてレース本番です。大きな空が広がる雄大な十勝平野、白い花をつけたじゃがいも畑がゆったりとした気分させてくれるのとうってかわってレースは本当に過酷でした。私の乗った三菱ランサーエボリューションはおよそ380馬力、直線のストレートで約240キロというスピードが出ます。そのスピードからフルブレー

キングし、コーナーをぬけたらフル加速します。5点式のシートベルトでしっかり身体を固定するのですが380馬力の加速、減速というのは皆様想像が難しいかもしれませんが、脳や身体の内臓がグッと移動するのです。特にアクセルを踏み込んだ時、脳がズッとずれるのがわかります。そうなる身体にどんな変化がおきるのか、それは吐き気です。毎日のようにレーシングカーに乗っているプロドライバーなら身体も慣れ、そういった事もないのですが、私はそうではありません。十勝のレースウィークはこの吐き気との戦いでもありました。さて、レースの経過で経つごとにクラッシュやマシントラブルでメカニックが慌ただしく動き回る中、私達のマシンは恐いほど順調に走り続けていました。このままだいけば初出場です。完走なんだと喜んでいてゴール直前、レース開始から23時間40分頃です。タイヤをしめるハブボルトが3本折れ、ゆっくり走るしかできないばかりか、運が悪ければタイヤがはずれそこで止まってしまいます。チェッカーフラッグが降られても私達のマシンはなかなか姿を表しませんでした。「絶対完走！」を宣言したレース、私達が完走しなければ赤ちゃんを助ける事ができない、ぐらいいの気持ちでドライバー、メカニック、チーム一丸となって望んだレース、こんなにかんばってきたのに24時間にほど近いあと数分の事でゴールできないのか。無線も故障し、マシンの状態がわからず、チーム全員で最終コーナーを見つめる事しかできませんでした。皆が神様に祈るような気持ちでいた時ゆっくりと赤いマシンが帰ってきました。私達はゴールしたのです。そして初出場ながら6位入賞という結果になっていました。同時にこれでみらいちゃんも助かる！と感じました。山下みらいちゃんは、私の夢をかなえてくれたように助かりました。彼女が助かったのは私のせいではありません。微力ながら力になれた事を心から嬉しく幸せに思うばかりでなく、走ったのは私達ですが過酷なレースに挑む勇気をくれたのはあの赤ちゃんです。

彼女に勇気をもらい私はまた自分を試すために新たな夢に挑戦しようとしています。それは海外でのレースに参戦する事です。場所は中東ドバイ。欧州をふくめ24時間耐久レースシリーズ開幕戦となるこのレースへの出場は女性として、そして日本人としても初出場となります。第3回目となる2008年は、既に

28 カ国にもものぼる各国からのエントリーが確認されており、90 台に達する参加車両のバラエティにも話題が集まっています。このレースの特徴は、単に長丁場の耐久レースであることにとどまらず、「リゾート王国ドバイ」を象徴する、セレブリティたちのバカンスウイークとしてのポジションをも確立しつつあることです。ヨーロッパから6時間という利便性と、新たなビジネスの場としての注目度から多数の富裕層をターゲットとしています。夢のような話ですが、現実はそのレースに出場するのに今とても厳しい状況であり、険しい道のりであります。でも数万円のポンコツ車でスタートした私はここまでくる事ができました。私がレースに出るのには意味があります。まず自分の限界に挑戦する事、娯楽のレースでなく真剣勝負であり、そして自己満足でおわらせず、社会貢献として還元すること、それが私の志です。私だけ幸せになりたいなんて思いません。子供たちに夢をえがかせられる「大人」。大人に夢を与えられる西川美佳になりたいと思います。本日はありがとうございました。ここまでのお話を聞いてくださった皆様に感謝いたします。そして私をこうして育ててくれた両親に感謝します。



西川美佳さんのWEBサイト「Spirit」
<http://blue.ap.teacup.com/evoracingproject/>

※豊川宝飯RCの例会で講師をされたことがブログに載っています。是非見て下さい。

★ゴルフ同好会コンペ

4月29日に第6回ゴルフ同好会コンペが開催されました。今回は、遠征ということで森林公園ゴルフ場にて開催をしました。

優勝 鈴木健雄 Groos82 Hdcp9 Net73
 準優勝 夏目雅康 Groos89 Hdcp12 Net77
 3位 加山昌弘 Groos104 Hdcp25 Net79

★ニコニコボックス

◎その他

大沢茂樹会員	久しぶりに出席します
小野喜明会員	シングルコンパ お世話になり
鈴木健雄会員	同好会コンペで優勝
夏目雅康会員	同好会コンペで準優勝
岩瀬 保会員	ヨーロッパ旅行に行きました
細井 勉会員	誕生日を祝って頂き
山田久就会員	〃
後藤文良会員	〃
井指光基会員	〃
伊藤靖彦会員	〃
加山昌弘会員	所要にて途中退席します

ロータリー豆知識

ポリオ撲滅情報

3月25日、世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)は、アフリカ東部の国ソマリアで、1年間ポリオの症例が報告されていなかったことを発表。暴力と貧困、基本的な公共設備の欠如をも乗り越え、この国は再びポリオのない国となりました。ソマリアでは2002年に一度ポリオが撲滅されたものの、2005年に再び、ナイジェリアで発生した野生型ポリオウイルスが飛び火して228件の症例がみられました。それを受け、1万人以上のボランティアと保健員が、安全性に乏しい地域の5歳以下の子どもたちに短期間に経口ポリオワクチンを投与。地域社会の人々からの力強い支援もあって、地球上で最も危険な国の一つとされているソマリア全域において180万人以上の子どもにワクチンが投与されました。世界保健機関(WHO)の東地中海地域事務局局長・フセイン A. ゲザリー博士は「この歴史的な偉業は、たとえどんなに厳しく困難な環境であってもポリオの撲滅が可能であることを証明してくれました」と話します。残されたポリオ常在4か国のうち、アフガニスタンについては、2月にWHOがウイルスを同国南部だけに食い止めることに成功したと発表。アフガニスタンとパキスタンにおけるポリオ症例数の合計は、2007年の全症例のうちの5%を占めていましたが、インドとナイジェリアより先にポリオを撲滅できる可能性が高まっています。

(インターネット速報より抜粋)

ロータリー財団のポリオ撲滅支援のための「ロータリー1億ドルのチャレンジ」が始まります。(詳しくはロータリーの友4月号を)

会報担当者：林 博宣会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。